

# 日本リハビリテーション 病院・施設協会誌

Japan Association of Rehabilitation Hospital and Institution

186号

2023年3月発行

■ 巻頭特集

緊急  
座談会

地域における医科歯科連携の重要性と  
その推進を考える

■ REPORT 失語症者向け意思疎通支援事業について

■ REPORT 研修会に関する要望の調査報告

■ 連 載 理事が語るシリーズ介護医療院におけるリハビリテーション

ZOOM-IN 会員病院・施設

医療法人社団健成会 介護老人保健施設リバーサイド御薬園



一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会

CONTENTS

- 3 **巻頭特集**  
**【緊急座談会】**  
**地域における医科歯科連携の重要性とその推進を考える**  
栗原 正紀 田口 円裕 渋谷 昌史 若林 秀隆
- 11 **巻頭言**  
**地域包括ケアの医療現場での実践**  
伊佐地 隆
- 12 **REPORT 1** **失語症者向け意思疎通支援事業について**  
内山 量史
- 14 **REPORT 2** **研修会に関する要望の調査報告**  
佐藤 吉沖 大住 雅紀
- 17 **REPORT 3** **認知症の行動・心理症状 (BPSD) を回避するケアと環境調整**  
田中 志子
- 20 **REPORT 4** **アウトカムに貢献するリハビリテーション看護**  
板倉 喜子
- 22 **REPORT 5** **退院支援 ～口のリハビリテーションの観点から～**  
岡崎 裕香
- 24 **トピック 1** **地域における臨床研究のススメ 7 比較の質その3**  
紙谷 司
- 26 **連載** **理事が語るシリーズ 介護医療院におけるリハビリテーション**  
鈴木 龍太
- 28 **連載** **地域リハ塾活動報告 地域リハ塾実践報告と新たな仲間を迎えて**  
地域リハ塾4ブロック
- 30 **CURRENT TOPICS** **厚労省関連ニュース**
- 33 **ZOOM IN** **会員病院・施設**  
**医療法人社団健成会**  
**介護老人保健施設リバーサイド御薬園**  
**(熊本県)**
- 38 **Information**



# 地域包括ケアの 医療現場での実践



伊佐地 隆

日本リハビリテーション病院・施設協会 理事  
医療法人社団筑波記念会筑波記念病院 副院長

地域包括ケアシステムは、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組みであり、20年前から国が推し進めてきている。

比較的心身の介護状態が安定した生活者に対しては、近年有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅など、民間介護業者の参入が充実しつつあり、それぞれの住まいでそこそこの介護・予防・生活支援のサービスは提供されている。そのような住まいで生活する人をターゲットにした訪問診療専門の医療施設も増え、通院しなくても居宅にしながら定期的な医師の診察が受けられるようになっている。

しかし問題は、偶発的な変調や事故などによってこの平穏な状態が破綻したときに生ずる。その問題、つまり何か起きたときにすぐに対応が可能か、それこそが住み慣れたところで最後まで暮らし続けられるかどうかの分かれ目であり、それが保証されていることが安心材料となる。

破綻の程度によって、大まかに次のような段階づけができる。①救急搬送を要し2次以上の救急対応が必要な状態、②ウォークインで受診はできたがそのまま帰宅はできない状態、③外来レベルの対応で帰宅が可能な状態。①の場合は急性期専門科での専門治療を要するが、急性期から在宅復

帰できる場合も多く、何割かが回復期のリハビリテーション（以下、リハ）を必要とし、残りはちょっとした期間のリハができれば帰宅可能となる。②は数週間から1～2か月のリハをしっかりとやれば在宅復帰が可能となる。

この①の「ちょっとした期間のリハ」と②の「1～2か月のリハ」を担う目的で2014年度の診療報酬改定で制定されたのが、地域包括ケア病棟である。

これらは回復期リハまでは必要としないが、すぐに在宅復帰に至らないケースで、具体的には保存的治療対象の各種骨折、呼吸器、尿路、皮膚の感染症などである。このようなケースに医療が手を差し延べられることが、地域包括ケアがうまく機能する鍵となると考え、当院のリハ科では、自院の急性期科と近隣の急性期病院から、入院当日ないしは遅くとも数週の急性期のうちに希望患者を受け入れて、最長60日で治療やリハを行い、元の生活に戻す取り組みを2年前から始めた。

7年前に当院にできた地域包括ケア病棟を活用し、地域包括ケアを支える治療が実践できる最後の砦としての医療現場を築くことができ、「何かあればいつでもどうぞ」と言える体制を確立した。

この体制が地域包括ケアにどの程度寄与できるのかを、今後検証していきたい。



※このページ以降の誌面をご覧ください。場合は、  
当協会への入会が必要です。

ご入会のお手続きは下記へ



【入会について】

<https://www.rehakyoh.jp/join.html>